

2026 年度 4 月期入学

第 2 次

京都大学大学院情報学研究科
博士後期課程学生募集要項

(国際プログラム及び社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜を含む)

(2026 年 2 月実施)

京都大学大学院情報学研究科

情報学研究科アドミッション・ポリシー

京都大学情報学研究科の掲げる「情報学」は、広く自然、人工、社会および生命システムにおける「情報」を対象としており、情報学研究科の教育研究は「人間・社会と情報とのインターフェース」、「数理モデリング」、「情報システム」というキーワードを3本の柱とする「広い意味での情報学」で特徴づけられています。情報学研究科ではこれらのキーワードに関連する個々の学術分野において新しい学術や技術を創生するだけでなく、情報の本質を理解し、情報技術が人類・社会に与える影響を理解し、情報に関する科学・技術が正しい方向に進展することを目指し、京都大学の目指す地球社会の調和ある共存の実現に「広い意味での情報学」の視点から貢献しようとしています。

情報学研究科の求める大学院生像は、このような研究科の理念を理解し、情報学研究科の掲げる「広い意味での情報学」の学術や技術の学修に熱意を持ち、また未来に向けて情報学の新たな領域を開拓しようとする意欲を持った優秀な学生と考え、そのような人材の幅広い受け入れを考えています。そのため、志願者の学修・研究を志す学術分野について一定の基礎学力を有していれば、「広い意味での情報学」と関わる多様なバックグラウンドの学生を、理系・文系という枠組みにとらわれず、また国内に限らず世界中から、広く受け入れます。また、既に社会に出て活躍している人に対しても、情報学を熱意をもって学ぼうとする人には広く門戸を開きます。

具体的な選抜基本方針としては、京都大学が望む、優れた資質を有して学問に対する意欲に溢れた人材に対して、情報学研究科の目指す「広い意味での情報学」に関わるいずれかの学術分野に関心を持ち、その分野に関する基礎学力と高いコミュニケーション能力を有する人材を、筆記試験と口頭試問等の組み合わせにより評価し、出身にとらわれずに幅広く受け入れます。さらに博士後期課程では、各自の専攻学術の基礎学力を背景に「広い意味での情報学」の最先端の知見を熱意をもって学修しようとする意志と能力を提出された書類等によって評価し、今後の情報学の発展に寄与する学術の創生や技術開発の研究に熱意をもって取り組む人材を受け入れます。

情報学研究科の知能情報学コース、社会情報学コースおよび通信情報システムコースには国際プログラムが設置されている。国際プログラムでは英語だけでの修了が可能である。

本募集要項における日時の表示については、すべて日本標準時とする。

募集要項に関しては和文で書かれた本募集要項が正規版であり、英文版は参考資料である。また英文版は <https://www.i.kyoto-u.ac.jp/en/admission/application/> からダウンロード可能である。

I. 募 集 人 員

知能情報学コース 若干名	社会情報学コース 若干名	先端数理科学コース 若干名
数理工学コース 若干名	システム科学コース 若干名	通信情報システムコース 6名
データ科学コース 若干名	合 計 20名程度	

◎知能情報学コース、社会情報学コースおよび通信情報システムコースは国際プログラム若干名を含む。

◎社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜は、各コースとも若干名募集。

II. 出 願 資 格

◎ 次の各号のいずれかに該当する者、あるいは、2026年3月末をもって、該当する見込みの者。

- 1 日本の大学院の修士の学位又は修士（専門職）若しくは法務博士（専門職）の学位を有する者
- 2 外国において、本学大学院の修士課程又は専門職学位課程に相当する課程を修了した者（注1）
- 3 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、本学大学院の修士課程又は専門職学位課程に相当する課程を修了した者（注1）
- 4 我が国において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。）の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程（本学大学院の修士課程又は専門職学位課程に相当する課程に限る。）を修了した者（注1）
- 5 国際連合大学（国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項の規定によるものをいう。次号において同じ。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者（注1）
- 6 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格した者であって、本学において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者（注2）
- 7 文部科学大臣の指定した者（注3、注4）
- 8 本研究科において、個別の出願資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達している者（注4）

注1．合格者については入学手続に先立って入学資格を別途確認するが、その際に提出書類等に虚偽が判明した際は、遡及して合格を取り消す。

注2．出願資格6によると考えられる場合は2026年12月2日（火）までに情報学研究科

教務掛へ連絡すること。事前の出願資格審査を実施する。事前の出願資格審査を受けずに
出願書類を提出しても受理しない。

注3. 大学を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、
研究所、研究機関、企業等において、2年以上の研究実績があり、学術論文、著書、研究
発表、特許等により、本学大学院修士課程修了者と同等以上の学力があると認められる者
であること。

注4. 出願資格7及び8による者は、事前に出願資格審査を受けなければならない。（出願資
格審査の項参照）事前の出願資格審査を受けずに出願書類を提出しても受理しない。

Ⅲ. 社会人特別選抜について

前記Ⅱの出願資格を満たし、出願時において、官公庁、会社等に在職し、入学後も引き続きそ
の身分を有する者で、所属長の推薦を受けた者を対象に特別選抜を行う。

Ⅳ. 外国人留学生特別選抜について

外国人留学生で前記Ⅱの出願資格を満たし、所定用紙による「Letter of Recommendation（推
薦書）」が提出可能な者を対象に特別選抜を行う。推薦書は日本語または英語で記載のこと。

Ⅴ. 出 願 資 格 審 査（出願資格7及び8による出願希望者。出願資格6については事前に情 報学研究科教務掛へ連絡すること。）

出願に先立ち資格審査を行うので、次の書類を、2025年12月17日（水）午後5時まで
に情報学研究科教務掛（総合研究8号館1階）に提出すること。送付する場合は、必ず**書留速達
便・レターパックプラス等の安全な手段により**、封筒の表に「博士後期課程第2次募集出願資格認定
申請」と**朱書（レターパックプラスの場合は「品名」に記載）**すること。

1. 出願資格審査必要書類（＊印は、募集要項に所定用紙が添付されている）

提出書類は日本語または英語で作成すること。日本語あるいは英語でない書類には、日本語訳あ
るいは英語訳を添付すること。

＊	1 出願資格認定申請・ 調書	（出願資格7、8該当者）
	2 卒業証明書（最終 学歴）	（出願資格7、8該当者）最終出身学校が作成したもの
	3 成績証明書	（出願資格7、8該当者）最終出身学校が作成したもの
	4 研究経過報告書	（出願資格7、8該当者）入学後に研究・学修を希望する内容を 視野に入れて、これまでに研究・学修した内容をA4判10枚程 度以下にまとめること。（様式随意）
＊	5 研究従事内容証明書	（出願資格7該当者）所属機関等が作成し、厳封したもの。
	6 資格免許証等	（出願資格7該当者）コース分野に関連する各種免許証等参考にな ると思われる書類の写し（A4判として簡単な説明を付すこ と）

2. 審査方法及び日程

- (1) 出願資格の認定申請をした者には、書類審査の後、口頭試問を行う。なお、提出された出願書類等の審査によって口頭試問を省略することがある。
また、過去に本研究科の出願資格審査を受け、出願資格を有すると認定された者は、上記必要書類の＊1の申請・調書のみ提出すれば十分である。口頭試問は省略する。
- (2) 口頭試問は、2025年12月23日（火）に本研究科において行う。
- (3) 資格審査の結果は、2025年12月26日（金）に申請者あてに郵送により通知する。

VI. 博士後期課程出願書類等（＊印は、募集要項に所定用紙が添付されている）

提出書類は日本語または英語で作成すること。日本語あるいは英語でない書類には、日本語訳あるいは英語訳を添付すること。提出書類に不正のある場合は失格とし、入学後に判明した場合には、過去に遡って合格を取り消す。

海外からの出願の場合に限って、当研究科ホームページから入学願書等をダウンロードして出願することが可能である。

<https://www.i.kyoto-u.ac.jp/en/admission/application/>（英語）

＊	1 入 学 願 書	所定の用紙に必要事項をボールペンで正確に記載のこと。 写真票・受験票には、上半身脱帽正面向きで出願前3か月以内に 単身で撮影した写真（画像加工、画像処理等を行っていないもの） （縦4cm×横3cm）を枠内に貼り付けること。
	2 成 績 証 明 書	最終出身学校が作成したもの。 ただし、出願資格7及び8該当者は不要。
	3 研 究 経 過 報 告 書	入学後に研究・学修を希望する内容を視野に入れて、これまでに 研究・学修した内容をA4判10ページ程度以下（様式随意、研 究発表等で用いた資料のある場合は別添可）にまとめること。た だし、日本語または英語で書かれた修士論文またはその予定稿が ある場合は、それをもって代えることができる。また出願資格7 及び8該当者で出願資格審査必要書類として既に提出している場 合は不要。
	4 研 究 計 画 書	これまでの研究経過を踏まえ、博士後期課程での研究計画をA4 判2ページ（様式随意）にまとめたものを提出すること。＊社会 情報学コースは別途、書式の指定あり。 冒頭に出願コース内の志望区分と出願者名を明記すること。
	5 在留カード又はパス ポートの写し	外国人留学生で、日本に在留している者は、在留資格・在留期間及び 現住所が記載された在留カードの表裏両面の写しを、海外在住の者は パスポートの顔写真のあるページの写しを、A4判の用紙にコピーし て提出すること。
	6 入学検定料振込書類	入学検定料については、「E X・決済」にて支払うこと。以下の URL にアクセスし、画面の指示に従って入学検定料（30,000円） を支払い、支払い確認画面から収納証明書をA4判の用紙で印刷 したものを、必ず出願書類と共に提出すること。 https://www3.univ-jp.com/kyoto-u/inf/ 振込期間 2025年12月10日（水）～2026年1月9日 （金）（最終日は午後5時まで）（期間外取扱不可） ＊日本国内から出願する場合 指定のコンビニエンスストア、クレジットカード（VISA、Master

		Card、JCB、AMERICAN EXPRESS、Diners Club INTERNATIONAL)、金融機関 ATM (Pay-easy)または指定のネットバンキングのいずれかで支払うこと。(出願者本人の名義ではない(例:両親等)クレジットカードや銀行口座での支払いも可能。) * 日本国外から出願する場合 クレジットカード (VISA、Master Card、JCB、AMERICAN EXPRESS、Diners Club INTERNATIONAL) により支払うこと。 (出願者本人の名義ではない(例:両親等)クレジットカードでの支払いも可能。) 居住している国、地域の事情等により、クレジットカードでの支払いができない場合は、12月12日(金)までに末尾の【問合せ先】に連絡すること。 【入学検定料の免除等について】 ※1 国費留学生として入学予定のものも入学検定料を納付すること。国費留学生として本学に入学が決定した場合は、別途手続のうえ検定料を返還する。(詳細は入学手続時に案内する。) ※2 本学大学院修士課程修了見込み者は不要である。 ※3 平京都大学総長が指定する災害による災害救助法適用地域において、主たる家計支持者が被災した者については、罹災証明書等を得ることができる場合は、入学検定料を免除することがある。対象となる災害及び要件については、京都大学ホームページ(「入学検定料の免除について」 https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/fees-exemption)を参照のこと。詳細については、2025年12月12日(金)までに情報学研究科教務掛まで問い合わせること。
*	7 入学手続き書類送付用シール	入学手続き書類送付用とし、所定の用紙に2026年3月上旬の住所・氏名・郵便番号を記入すること。(提出後、住所変更があった場合には、速やかに届け出ること。)
*	8 受験票送付用封筒 (募集要項添付の封筒を使用する場合)	募集要項添付の封筒に、760円切手(速達・簡易書留扱い)を貼り、2026年1月下旬に受験票を受け取る住所・氏名・郵便番号を記入のこと。
*	9 合否結果通知書送付用封筒 (募集要項添付の封筒を使用する場合)	募集要項添付の封筒に2026年2月中旬の住所・氏名・郵便番号を記入すること。(提出後、住所変更があった場合には、速やかに届け出ること。)
	10 あて名票 A (海外からの出願の場合で募集要項をダウンロードして出願する場合)	受験票送付用とし、所定の用紙に2026年1月下旬に志願者本人が日本に滞在予定の場合のみ所定欄に日本国内の住所・氏名・郵便番号を記入すること。
	11 あて名票 B (海外からの出願の場合で募集要項をダウンロードして出願する場合)	合否結果通知書送付用とし、所定の用紙に2026年2月中旬に志願者本人が日本に滞在予定の場合のみ所定欄に日本国内の住所・氏名・郵便番号を記入すること。(提出後、住所変更があった場合には、速やかに届け出ること。)
	12 あて名票 C (海外からの出願の場合で募集要項をダウンロードして出願する場合)	入学手続き書類送付用とし、所定の用紙に2026年3月上旬に志願者本人が日本に滞在予定の場合のみ所定欄に日本国内の住所・氏名・郵便番号を記入すること。(提出後、住所変更があった場合には、速やかに届け出ること。)

13	TOEFL/TOEIC/IELTS スコア票	(知能情報学コース、社会情報学コース志願者) TOEFL テストの ETS から送付された公式スコアレポート(Test Taker Score Report)の写し、TOEIC 個人用公式認定書(Official Score Certificate)の写し、IELTS の成績証明書(Test Report Form)の写しのいずれかを提出すること。 (通信情報システムコース志願者) TOEFL テストの ETS から送付された公式スコアレポート(Test Taker Score Report)の写し、あるいは TOEIC 個人用公式認定書(Official Score Certificate)の写しを提出すること。 詳細はⅦ. TOEFL/TOEIC/IELTS テスト受験に関する注意事項に従うこと。
* 14	選択科目申告表	(数理工学コース志願者のみ)

(注1) 最終出身校の卒業・修了証明書は入学手続き時に提出を求める。他大学院又は本学他研究科の在学学生で合格した場合は、入学手続き時に退学（または修了）証明書の提出が必要である。

現在の身分を偽って出願した場合は、入学後であっても、過去に遡って合格を取り消すことがある。

(注2) 外国人留学生で合格した者は、本学への入学に際して、在留資格（留学）および在留期間の記載された住民票の写しまたは在留カードの写しの提出が必要である。

(注3) 知能情報学コース、社会情報学コース、通信情報システムコースでは、英語能力の評価に TOEFL/TOEIC/IELTS（ただし IELTS は知能情報学コース、社会情報学コースのみ）テストのスコアを利用する。詳細についてはⅦ. TOEFL/TOEIC/IELTS テスト受験に関する注意事項を参照のこと。

(注4) TOEFL/TOEIC/IELTS スコア票等について、不正が判明した場合は失格とし、入学後であっても、過去に遡って合格を取り消す。

(注5) TOEFL/TOEIC/IELTS テストのスコア票等の提出のない場合は、英語能力の評価を 0 点として扱う。

◎特別選抜枠に出願する者は、上記書類の他、下記の書類を提出すること。（*印は、募集要項に所定用紙が添付されている）

<社会人特別選抜>

* 推 薦 書	所属の長又は指導的立場にある者が作成したもの。
研 究 実 績 調 書	在職中に行った研究実績を志望する研究分野の視点から記載すること。（A4判、様式・分量随意）

<外国人留学生特別選抜>

* Letter of Recommendation (推 薦 書)	最終出身学校が作成し、厳封したもの。日本語または英語で記載のこと。
---------------------------------------	-----------------------------------

Ⅶ. TOEFL/TOEIC/IELTS テスト受験に関する注意事項

- 各自で TOEFL テスト、TOEIC Listening & Reading テストまたは IELTS Academic テストの申込手続きを行い、受験すること。TOEFL、TOEIC、IELTS テストの受験に必要な費用は各自で負担すること。
- TOEFL (TOEFL iBT) の受験者用控えスコア票 (Test Taker Score Report) の写し、TOEIC Listening & Reading Test の個人用公式認定書 (Official Score Certificate) の写し、または IELTS Academic の成績証明書 (Test Report Form) の写しを出願時に提出すること。
- 出願締切日の2年前以降に受験した TOEFL/TOEIC/IELTS テストのスコア票に限り提出が可能である。自宅受験「TOEFL iBT® Home Edition」(「TOEFL iBT® Special Home

Edition」を含む)のスコア票は受け付けるが、TOEFL Essentials テスト、団体試験用の TOEFL ITP のスコア票やカレッジ TOEIC 等の団体特別受験制度 (IP テスト) の認定証等は受け付けない。

4. TOEFL、TOEIC、IELTS を合わせて複数回受験している場合、そのうちいずれか1つのスコア票を提出すること。
5. 異なる英語テスト (TOEFL/TOEIC/IELTS) のスコアの換算は、X. コース志望区分及び試験科目についての補足を参照すること。
6. 出願時に上記2で指定するスコア票等の提出が間に合わない場合は、出願時に、その旨を明記した書面 (A4 判、様式随意) を提出すれば、2月10日 (火) の最初の試験科目の開始前に、試験会場での提出を認める。ただし、その時点で提出されない場合は、「提出なし」 (すなわち、英語能力の評価を0点) として扱う。

VIII. 出願手続及び注意

1. 出願者は、出願書類等を次の提出先 (受付会場) へ持参、または送付すること。郵送に際しては、書留速達便・レターパックプラス等の安全な手段によるものとし、封筒の表に「博士後期課程第2次募集出願書類在中」と朱書 (レターパックプラスの場合は「品名」に記載) のうえ、次の住所へ送付すること。なお、提出された出願書類に不備があれば、こちらから問い合わせることがある。
2. 受験票の発送により、受理したことへの通知へ代える。
3. 出願書類受理後は、原則として出願事項の変更は認めず、出願書類が受理された場合の入学検定料の払い戻しには応じない。原則として、提出された出願書類は返却しない。
4. 外国の大学を卒業並びに大学院を修了した者及び外国において修士の学位を取得した者について、合格発表の後に、入学資格の確認を行う場合がある。京都大学の定める入学資格に該当しない場合は、入学試験において合格と判定されても、入学手続きが受理されない。
5. 複数コースへの出願及び同時に行われる2026年10月期入学博士後期課程学生募集との併願は認めない。
6. 京都大学では、外国人留学生等への教育・研究内容が、国際的な平和及び安全の維持を妨げることが無いよう、「外国為替及び外国貿易法」に基づく安全保障輸出管理を行っている。規制事項に該当する場合は、希望する教育が受けられない場合や研究ができない場合があるので、注意すること。

【出願書類等受付日及び提出 (送付) 先】

(1) 持参の場合

2026年1月9日 (金)

受付時間：午後2時から午後5時まで。

【受付会場】 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院情報学研究科事務室 (総合研究8号館1階 (裏表紙構内図参照))

(2) 郵送の場合

受付期間：2025年12月10日 (水) ～2026年1月9日 (金) 午後5時 (必着)

提出先：〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院情報学研究科教務掛

TEL (075) 753-4894, 5500

7. 障害等があつて受験上の配慮を必要とする出願者の事前相談を受け付ける。相談の内容によっては対応に時間を要することもあるため、相談依頼文書 (様式随意、ただし下記情報を含む

こと)に障害者手帳の写し又は医師の診断書を添付し、12月19日(金)までに上記出願書類提出先に持参または送付すること。【相談依頼文書に明記する事項】

- ・氏名、生年月日、住所、電話番号、メールアドレス
- ・志望コース名、課程(修士・博士後期)の別
- ・障害等の種類、および程度
- ・希望する配慮事項

IX. 入学者選抜方法及び検査日程

1. 入学者の選抜は、次の日程により本研究科において行う。

◎2026年度4月期博士後期課程第2次学力検査日程

各コースとも社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜を含む。

試験科目の内容、出題範囲、選択形式などの詳細については、後掲Xに記載されているので熟読すること。

※1 提出された出願書類等の審査によって、筆記試験の一部または全部を省略することがある。省略する場合には、願書に記載された現住所宛に2026年1月30日(金)までに連絡する。

※2 *印の科目は、当該コースにおいて社会人特別選抜該当者には課さない科目である。

コース \ 日 程	2026年2月10日(火)		2026年2月11日(水)		2026年 2月12日(木)
	試験時間	試験科目	試験時間	試験科目	
知 能 情 報 学	10:00～12:00	専門小論文	10:00～	口頭試問	予備日(注2)
社 会 情 報 学	9:30～11:30	情報学基礎	予備日(注2)		
	12:30～14:30 16:00～	専門科目 口頭試問			
先 端 数 理 科 学	10:00～12:00 13:30～	筆記試験 口頭試問(注1)	予備日(注2)		
数 理 工 学	13:30～16:30	専門科目*	13:30～	口頭試問	予備日(注2)
シ ス テ ム 科 学	10:00～12:00 13:00～	専門科目 口頭試問	予備日(注2)		
通信情報システム	10:00～ 13:00～15:30	口頭試問 専門科目*	予備日(注2)		
デ ー タ 科 学	9:30～12:00	口頭試問	予備日(注2)		
	13:00～15:00	専門科目			

注1. 先端数理科学コースの口頭試問出頭時間は、2026年2月10日(火)午前9時30分までに、情報学研究科事務室前入試用掲示板(総合研究8号館1階)に掲示する。筆記試験が省略された者については、口頭試問の開始時間を午前10時に繰り上げることがある。

注2. 気象警報の発令等により試験実施が困難な場合は、予備日を利用して試験の実施日程を繰り下げることがある。試験日時を変更する場合は、試験当日の朝にWEBページ(<https://www.i.kyoto-u.ac.jp/>)にて告知するので受験生は必ず確認すること。

2. 受験票は、出願時に指定された受け取り先の住所に1月下旬に郵送する。1月30日(金)までに受験票が届かない場合は、本要項【問合せ先】に記載のメールアドレスに問い合わせること。なお、海外在住者には受験票をスキャンしたPDFファイルを入学願書に記載のメールアドレス宛に送付するので、紙に印刷したものを持参すること。

3. 試験場等受験に関する注意事項の掲示について

掲示内容については各自で確認すること。電話等による問い合わせには応じない。

日 時：2026年2月9日（月）午後1時以降に行う

場 所：情報学研究科事務室前入試用掲示板（総合研究8号館1階：裏表紙構内図参照）
知能情報学コースについては、同時に、研究科ホームページにてオンライン掲示を行う

4. 試験当日は、試験開始30分前までに当該試験室前に集合すること。なお、口頭試問についてコースによって別の指示があるときはその指示に従うこと。

5. 学力検査（筆記試験）に関する注意事項

①試験室では必ず受験票を携帯し、試験監督の指示に従うこと。

②試験に使用を認めるものは、鉛筆・シャープペンシル・鉛筆削り・消しゴム・定規・時計（計時機能だけのもの）・ハンカチ・ティッシュペーパー（中身だけを取り出したもの）に限る。スマートフォン・携帯電話等を机の上に出すことはできない。

③辞書・事典（電子辞書を含む）の使用を許可しない。

④その他参照物については、コースの指示に従うこと。

⑤試験開始時間に遅れた場合は、各科目とも試験開始後30分以内に限り入室を認める。

⑥欠席した科目の点数は0点として扱う。2科目以上欠席した場合は失格として扱うので、以後の科目を受験することはできない。

6. 口頭試問に関する注意事項

口頭試問の対象者で口頭試問を欠席した場合は失格として扱う。

X. コース志望区分及び試験科目についての補足

1. 各コースの志望区分及び試験についての補足は、次頁以降に記載。

2. 志望区分について

入学願書の所定欄及び研究計画書冒頭に、志望するコースの志望区分の中から1つのみを選択して記入すること。志望区分の選択にあたっては、出願に先立ち、当該区分に属する本研究科の教員と連絡をとり、研究方向の適性等について十分な指導を受けておくこと。

入学願書に記載された事項は、原則として、願書が受理されてからは修正・変更できないので、注意して記入すること。

（注意） ※印を付した志望区分は今回募集を行わないので、選択することはできない。

なお、「志望区分案内」は <https://www.i.kyoto-u.ac.jp/admission/application/> に掲載されているので、出願前に必ず確認すること。

(1) 知能情報学コース

(ア) 研究経過報告書についての補足

出願までの研究成果をA4用紙2ページ以上10ページ程度以下(様式自由)に日本語または英語で記載すること。修士論文を執筆した場合は、必ず修士論文も提出すること。

(イ) 研究実績調書についての補足

主要な学術論文(修士論文以外で公表されたもの)があれば、合わせて提出すること(提出できるのは3編以内)。

(ウ) 専門小論文についての補足

志望区分ごとに出題する。志望区分における大学院博士後期課程での研究課題に関連する出題を行う。

(エ) 英語に関する補足

提出された英語スコアの種別(TOEIC/TOEFL/IELTS)に応じて、下記の計算式を適用することで入学試験の英語スコア(100点満点)とする。

- ・ 英語スコア = $0.111 \times \text{TOEIC スコア} - 26.754$
- ・ 英語スコア = $0.833 \times \text{TOEFL スコア}$
- ・ 英語スコア = $14.723 \times \text{IELTS スコア} - 19.653$ (最大は 100)

(オ) 口頭試問についての補足

「これまでに行った研究の概要と希望する研究」に関して10分程度の発表と数分の質疑を日本語あるいは英語で行う(発表に使用できる機器は書画カメラのみであるので、各自A4用紙を用いてプレゼンテーション用の発表資料を準備し、口頭試問に臨むこと)。

(カ) 筆記試験についての補足

筆記試験は、日本語と英語が併記で出題される。解答は日本語あるいは英語で行うこと。

(キ) TOEFL/TOEIC/IELTS スコア票提出に関する特例

本研究科修士課程在学および修了の受験者に対して、スコア票提出を免除する。

(ク) 合格者決定に関する補足

専門小論文の点数、口頭試問の点数(出題書類の内容評価を含む)、英語スコア(提出免除者を除く)、各志望区分の受入れ可能な学生数を総合して合格者を決定する。配点は、専門小論文100点、口頭試問200点、英語スコア100点(提出免除者を除く)である。

(ケ) 志望区分及び研究分野

志望区分	研 究 分 野
知-1	脳情報学、ブレイン・デコーディング、ブレイン・マシン・インターフェース、脳イメージング、計算論的神経科学、視覚科学、生物学的精神医学、社会神経科学、神経経済学
知-2	心理情報学、高次脳機能、認知神経心理、認知的インタフェース、人間の心理状態の推定、認知科学
知-3※	認知情報学、視覚科学、心理物理学、メタ認知(自己認知に対する認知)、人間の視覚と機械の視覚の比較、人間の感覚特性を利用したメディア技術

知－4 a◎	計算論的認知神経科学 、計算脳科学、意思決定と強化学習、社会知性の脳計算、脳型知能と機械学習、ヒト fMRI 実験と理論
知－4 b◎ ※	計算論的認知神経科学 、感情センシング、表情認識、人－ロボット相互作用、実験心理学、fMRI 計測、生理計測
知－5※	知能計算 、知識発見、計算論的学習、機械学習のための最適化
知－6	集合知システム 、機械学習、データマイニング、ヒューマンコンピューテーション
知－7	記号創発システム 、記号創発ロボティクス、コミュニケーション創発、マルチモーダル言語理解、認知アーキテクチャ、人間を系に含んだシステム
知－8	言語メディア 、言語情報処理、言語解析、言語生成、機械翻訳、情報検索
知－9	音声メディア 、音声認識、音環境理解、ロボットとの音声対話
知－10	コンピュータビジョン 、視覚情報処理、視覚知能
知－11	ヒューマンセンシング 、人物行動観測・解析、身体性とインタラクション、動作・行動支援
知－12	テキストメディア 、言語理解、言語生成、言語知識獲得、思考・認識の言語化、シンボルグラウンディング
知－13	バイオ情報ネットワーク 、バイオインフォマティクス、数理生物情報学、複雑ネットワーク

◎連携ユニット（知－4 a、知－4 b）について

本コースでは、知能情報学の基盤となる脳の計算論的理解に関する教育・研究を推進する目的で、理化学研究所（理研）との間で「計算論的認知神経科学連携ユニット」を設置している。

知－4 a は理研脳神経科学研究センター（埼玉県和光市）、知－4 b は理研ロボティクスプロジェクト（けいはんな学研都市）に所属する連携教員で構成され、本コース教員の主任指導のもとで、連携教員から研究指導補助を受ける。履修要件や修了要件は、他を志望した学生と同一である。連携ユニットの連携教員や研究分野については、知能情報学コースのホームページを参照のこと。

志望区分欄の記載にあたっては、知－4 a か知－4 b かを明記すること。

※認知情報学（知－3）、計算論的認知神経科学（知－4b）、知能計算（知－5）について

当該分野に関しては、今回は配属しない。

（コ）コースのホームページ

<https://www.ist.i.kyoto-u.ac.jp/>

(2) 社会情報学コース

(ア) 専門科目についての補足

願書に記入された志望区分の分野から出題された3題について解答すること。

(イ) 情報学基礎についての補足

情報学基礎に関する筆記試験は以下に指定した教科書の内容から3題出題する。

「入門 コンピュータ科学 IT を支える技術と理論の基礎知識」

(J. Glenn Brookshear 著、神林靖・長尾高弘 翻訳、

KADOKAWA/アスキー・メディアワークス 出版、

ISBN-10: 4048869574、ISBN-13: 978-4048869577 (第10版)、もしくは

ISBN-10: 4048930540、ISBN-13: 978-4048930543 (第11版))

※第10版と第11版の共通部分から出題する(第11版を使用する際は、第5ページの「第11版で加えたもの」を参照)。ただし、第10章「コンピュータグラフィックス」は出題範囲から除く。

(ウ) 筆記試験についての補足

筆記試験は、日本語と英語が併記で出題される。日本語あるいは英語で解答すること。

(エ) 口頭試問についての補足

口頭試問では、出願者は提出された「研究計画書」に従って、日本語あるいは英語でこれまでの研究経過、博士後期課程での研究計画について5分以内のプレゼンテーションを行い、その後質疑を受ける(PC、液晶プロジェクタ等は使用しない)。

口頭試問会場への受験票以外の所持品の持ち込みを禁じる。

なお、研究計画書の書式については(カ)研究計画書についてを参照すること。

試験官には出願者が提出した「研究計画書」のコピーを配布する(出願者がコピーを用意する必要はない)。

(オ) デザイン学大学院連携プログラム第三年次編入についての補足

研究科博士後期課程入学時に、同時にデザイン学大学院連携プログラム第三年次編入を希望する学生は、願書提出に先立ってコース長に連絡を取ること。

デザイン学プログラム URL <http://www.design.kyoto-u.ac.jp/>

(カ) 研究計画書について

様式

試験官は「研究計画書」のコピーを見ながら出願者の説明を聞くため、「研究計画書」の作成にあたっては、簡潔で分かりやすいものとなるよう各自工夫すること。(たとえば要点をまとめた図や表などを用いて内容を表現し、どの部分を説明しているかを明確にするためにそれぞれのスライドや図表にキャプションを加えるなど)。

書式

A4判片面2ページ以内で作成すること。

先頭ページには冒頭に出願者名と志望区分を明記すること。研究テーマの記載は任意とする。

応募に至った経緯および指導を希望する教員との連絡状況についても記述すること。

ページは左右上下とも2.5 cm以上の余白を設定すること。

フォントサイズは刷り上り10.5ポイント以上とすること。

PowerPoint等のスライドを載せる場合は1スライドが1/4ページ以上となるようにすること。

(キ) 志望区分及び研究分野

志望区分	研 究 分 野
社－１	ヒューマンコンピュータインタラクション、ユーザエクスペリエンス、人間中心 AI、インクルーシブ・デザイン、ウェルビーイング、ソーシャル・コンピューティング、人間行動理解
社－２	ヒューマンロボットインタラクション、知能ロボティクス、センサネットワーク、インタラクション、コミュニケーションロボット、人工知能、サイバーフィジカルシステム
社－３	あらゆる有益な情報の共有環境の実現: Web 情報分析、ソーシャルネットワーク分析、クラウドソーシング、情報検索、データベース、情報アクセスインタフェース
社－５	マルチエージェントシステム、計算論的メカニズムデザイン、ソーシャルコンピューティング、意思決定・合意形成、コレクティブインテリジェンス、人工知能、大規模言語モデル、社会実装・事業化
社－６	安全・安心な情報社会の確立、暗号理論、デジタル署名、ゼロ知識証明、マルチパーティー計算、実装安全性、暗号通貨、プライバシー保護
社－８	情報学からの資源生物学・生態学の探究、環境変動と生物応答、資源動物・絶滅危惧種の行動・生態、生物資源データの収集・解析
社－９	生態系の保全と利用、生態系サービスの評価、水と物質循環のモニタリング、環境情報の収集・アーカイブ・利用
社－１０	総合防災施策や情報システムのデザイン、災害の経済分析、防災計画、災害リスクガバナンス、災害リスク・コミュニケーション、災害リスク制御、災害リスクファイナンス
社－１１	災害リスク・コミュニケーション、防災心理学、社会心理学、アクションリサーチ、災害情報、避難行動、減災・防災文化、防災教育、地域防災、災害復興、災害の伝承
社－１２	危機管理、災害対応、レスキュー活動、避難行動、リスク・コミュニケーション、災害時情報収集、GIS、時空間データベース、マイクロジオデータ、防災データサイエンス
社－１３	医療 DX、ユビキタス病院情報システム、診療空間情報計測、電子カルテ、EHR・PHR、データヘルス、医療 AI、病院管理、遠隔医療、ウェアラブル生体情報計測、モバイルヘルス、医用 VR・AR
社－１４	教育・学習工学、e ラーニングシステム、ラーニングアナリティクス、教育データサイエンス、モバイル・ユビキタス学習環境、協調学習環境、適応的学習環境

社-15	大規模分散システム、ピア・ツー・ピア、ブロックチェーン、インターネット、ネットワーク、分散機械学習、データ工学、ソーシャルグラフ分析、分散データベース、ミドルウェア、計算機システム
社-16	画像解析、計算イメージング、パターン認識、コンピュータグラフィックス

(ク) コースのホームページ

<https://www.soc.i.kyoto-u.ac.jp/>

(3)先端数理科学コース

(ア) 提出書類についての補足説明

研究経過報告書は、予定している修士論文の内容を視野に入れて、A4判10ページ程度に纏めること。日本語または英語で書かれた修士論文（またはその予定稿）がある場合は、研究成果報告書に代えてそちらを提出することが望ましい。

(イ) 専門科目についての補足

願書に記入された志望区分に関連する専攻学術について、筆記試験を行う。筆記試験は日本語で出題される。

(ウ) 口頭試問についての補足

筆記試験の結果により、口頭試問を省略する場合がある。口頭試問は日本語または英語で行われ、試問時間は概ね40分を予定しているが、提出された書類の審査等により、試問時間を短縮することがある。

志願者には研究経過報告書等の内容を30分程度口頭発表（発表時間を短縮する場合がある。）してもらい、その上で発表内容及び志望する研究分野等に関する質疑応答を行う。発表に際して黒板・OHPの機器およびPC用のプロジェクタは試問室に準備しているが、ノートパソコン等は準備していない。発表の際に利用する機器についての希望や質問がある場合は、出願時に本研究科事務室教務担当に申し出て予め確認しておくこと。

(エ) 志望区分及び研究分野

志望区分	研 究 分 野
先端－1	応用解析学、逆問題、非線型問題、偏微分方程式、確率論、フラクタル解析
先端－2	非線形力学、非線形振動系、計算物理学
先端－3	理論神経科学、非平衡・非線形物理学、ネットワーク結合力学系
先端－4	数値シミュレーション、数値解析、計算力学、計算工学
先端－5	流体力学、希薄気体力学、流体の数値計算

(オ) 指導教員について

先端数理科学コースでは、入学後の指導教員は、原則として本コースの教授または准教授の中からあてる。

(カ) コースのホームページ

<https://www.acs.i.kyoto-u.ac.jp/>

(4)数理工学コース

(ア) 専門科目についての補足

願書に記入した志望区分以外の志望区分（数－7を除く）を出願時に1つあらかじめ選択し、「**選択科目申告表**」に明記して提出すること。試験では、どの受験者からも申告がなく、受験者の志望区分でもない志望区分からは出題しない。各受験者は、願書に記入された志望区分から2題（必須）、数－7を除くその他の志望区分から1題（選択）、計3題を解答すること。

筆記試験は、英語で出題される。日本語あるいは英語で解答すること。

(イ) 口頭試問についての補足

これまでの研究経過、これからの研究計画について20分発表の後、10分程度の質疑応答を行う。発表にあたって、プロジェクト等の使用は可能である。

(ウ) 志望区分及び研究分野

志望区分	研 究 分 野
数－1	数理解析、ソリトン・可積分系の数理、行列・固有値アルゴリズム
数－2	離散数理、組合せ最適化アルゴリズム、グラフ・ネットワーク、計算の複雑さ
数－3	最適化数理、数理計画の理論と応用、オペレーションズ・リサーチ
数－4	制御システム論、ロバスト最適制御、システム同定・モデリング
数－5	物理統計学、非線型・複雑系の基礎理論、確率過程の基礎と応用
数－6	力学系、微分方程式、数理物理学
数－7	応用数理モデル、モデル論、社会・情報システムモデリング

(エ) コースのホームページ

<https://www.amp.i.kyoto-u.ac.jp/>

(5)システム科学コース

(ア) 専門科目についての補足

願書に記入された志望区分から1題、その他の志望区分から1題の計2題を解答すること。ただし、社会人特別選抜の区分での受験者については、願書に記入された志望区分からの2題を選択しても良い。日本語あるいは英語で解答すること。配点は1題100点、合計200点である。

(イ) 口頭試問についての補足

これまでの研究経過、これからの研究計画について15分発表の後、試問を行う。パソコン等による発表準備をし、日本語あるいは英語で発表すること。配点は200点である。

(ウ) 英語について

英語の試験は課さない。

(エ) 合格者決定についての補足

専門科目の点数、口頭試問の点数、および各志望区分の受け入れ可能な学生数を総合して合格者を決定する。

(オ) 志望区分及び研究分野

「シー9」を志望する場合は、研究分野表の下に記載の（補注）にしたがうこと。

志望区分	細目	研 究 分 野
シー1		機械システム制御、システム制御理論、ネットワークシステム、群知能
シー2		ヒューマンシステム論、プロセスデータ解析・制御、生体・医療情報処理、低炭素製造技術
シー3		統合動的システム論、最適制御、非線形システム、不確実システム
シー4		情報数理システム、情報統計力学、情報通信理論、統計的学習理論
シー5		統計知能、統計学、機械学習、データ科学
シー6		学習機械、ロボティクス、ヒューマノイド運動学習、ヒト動作推定
シー7		論理生命学、強化学習、脳の学習モデル、ブレイン・マシン・インターフェース
シー8		バイオサイバネティクス、生体運動制御、医工情報学、予測医学基盤
シー9	(a)	計算神経科学、ブレインネットワークインターフェース
	(b)※	神経回路情報処理、自由エネルギー原理、アトラクターダイナミクス
	(c)※	大脳基底核と神経修飾物質、進化ロボティクス

※印の「志望区分」および「志望区分（細目）」に関しては、今回は配属しない。

（補注） 志望区分「シー9」は以下の（カ）にある連携ユニットに対応する。この区分を志望する場合は、例えば「シー9(a)」のように、研究分野について細目を付記すること。

(カ) 連携ユニットについて

システム科学に関する幅広い視野を有する高度人材の養成を目的として、ATR脳情報研究所、理化学研究所脳神経科学研究センター、沖縄科学技術大学院大学との間で「計算神経科学連携ユニット」を設置している。連携ユニットは当研究科教員のほか上記の他機関からの連携

教員で構成され、当研究科教員の主任指導の下で他機関の連携教員からの研究指導補助を受ける。その他の履修要件、修了要件は同一である。これら連携ユニットを担当する他機関の連携教員はシステム科学コースのホームページで公開している。

(キ) コースのホームページ

<https://www.sys.i.kyoto-u.ac.jp/>

(6) 通信情報システムコース

(ア) 専門科目についての補足

願書に記入された志望区分における大学院博士後期課程での研究課題に関連する3題が出題される。3題とも解答すること。

(イ) 筆記試験についての補足

筆記試験は、日本語あるいは英語で解答すること。

(ウ) 口頭試問についての補足

一人あたり15分程度の口頭試問を行う。受験者は、これまでの研究内容および博士後期課程における研究計画を説明する。説明時間は8分とする。PC用のプロジェクトは試問室に準備している。PCは準備していないので必要なら各自で持参すること。

(エ) 志望区分及び研究分野

志望区分	研 究 分 野
通－1	アルゴリズム、離散構造、計算量、論理回路、新原理計算
※通－2	
通－3	計算機ソフトウェア、プログラム理論、プログラミング言語
通－4	デジタル通信、移動体通信、無線信号処理
※通－5	
通－6	情報通信ネットワーク、通信システムアーキテクチャ、トラヒック分析・制御
通－7	集積システム設計技術、並列処理アーキテクチャ、集積回路応用
通－8	半導体集積システム設計技術、低消費電力集積回路設計技術、バイオ・医療応用集積システム
通－9	集積システムアーキテクチャ、高信頼集積システム、集積システム応用
通－10	レーダーリモートセンシング工学、レーダー大気物理学、赤道超高層大気物理学
通－11	光・電波大気計測、赤道大気科学、大気環境計測
通－12	スーパーコンピューティング、高性能計算、省電力計算・数値線形代数
通－13	ネットワークメディア、インターネット、情報セキュリティ、クラウド・エッジコンピューティング、分散アルゴリズム

※については、今回は募集しない。

(オ) コースのホームページ

<https://www.cce.i.kyoto-u.ac.jp/>

(カ) TOEFL/TOEIC スコア票提出に関する特例

- (1) 社会人特別選抜の受験者は提出不要。
- (2) 本研究科修士課程在学および修了の受験者に対して、スコア票提出を免除する。

(7) データ科学コース

(ア) 専門科目についての補足

志望区分ごとに出題する。志望区分における博士後期課程での研究課題に関連する内容を出題する。

(イ) 口頭試問についての補足

これまでの研究経過、これからの研究計画について 10 分程度の発表ののち、10 分程度の試問を行う。パソコン等による発表を準備すること。

(ウ) 英語について

英語の試験は課さない。

(エ) 合格者決定についての補足

専門科目と口頭試問の結果、および各志望区分の受け入れ可能な学生数を総合して合格者を決定する。

(オ) 志望区分及び研究分野

志望区分	研 究 分 野
デ-1	統計知能、統計学、機械学習、データ科学
デ-2	数理統計学、計算代数統計学、ベイズ統計学、データ科学
デ-3	情報数理システム、情報統計力学、情報通信理論、統計的学習理論
デ-4※	統計的信号処理、モデルベース機械学習、スパースモデリング、情報通信
デ-5※	教育データ科学、教育情報学
デ-6	集合知システム、機械学習、データマイニング、ヒューマンコンピューテーション
デ-7※	健康関連データ科学、医療 DX、視機能のデータ科学、データヘルス
デ-8	機械学習、メタ学習、帰納バイアスを活用した学習

※デ-4、デ-5、デ-7については、今回は配属を行わない。

(カ) コースのホームページ

<https://www.ds.i.kyoto-u.ac.jp/>

XI. 合格者発表

下記日時に掲示するとともに、合格者には合格通知書を送付する。

(電話等による問い合わせには応じない。)

日 時：2026年2月17日(火) 午後3時

場 所：情報学研究科事務室前掲示板(総合研究8号館1階)

当研究科ホームページにも上記同時刻以降、2月24日(火)午後3時まで掲載する。

<https://www.i.kyoto-u.ac.jp/admission/pass/> (日本語)

<https://www.i.kyoto-u.ac.jp/en/admission/pass/> (英語)

入学手続きについては、2026年3月上旬に合格者あて郵送等により通知する。

XII. 長期履修学生制度について

本課程の標準修業年限は3年、在学年限は6年であるところ、就労・育児・介護の事情により、履修期間を予め最大6年迄延長することを認める制度がある。(ただし、在学年限は延長されない) 制度の適用を希望する場合は、出願に先立ち、2026年1月6日(火)午後5時までに情報学研究科教務掛へ問合せること。

XIII. 入学料及び授業料

入 学 料 282,000円(予定)

(2026年3月末に本学大学院修士課程を修了する者は不要)

授 業 料 年額 535,800円(予定)

(長期履修学生は履修年数により異なる)

注1：国費外国人留学生は入学料・授業料ともに不要

注2：入学料および在学中に授業料が改定された場合には、改定時から適用される。

XIV. 個人情報の取扱いについて

個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「京都大学における個人情報の保護に関する規程」に基づいて取り扱う。入学者選抜を通じて取得した出願書類等に記載されている、氏名、性別、生年月日、住所等の個人情報(成績判定に関する情報を含む)は、①入学試験の実施、②入学手続き、奨学金制度等、③入学者の受入準備等の業務目的において利用する。

【募集要項の請求】

《国内からの出願の場合》

募集要項を郵送で請求する場合は、レターパック(送付先住所・氏名・郵便番号・電話番号を明記したもの)を同封のうえ「2026年度4月期入学第2次博士後期課程学生募集要項請求」と朱書きし、【問合せ先】へ請求すること。出願に際しては、本募集要項に添付された出願用書類が必要である。

なお、海外からの出願の場合のみ、当研究科ホームページから入学願書等をダウンロードして出願することも可能である。

<https://www.i.kyoto-u.ac.jp/en/admission/application/> (英語)

【問合せ先】

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院情報学研究科教務掛(総合研究8号館)

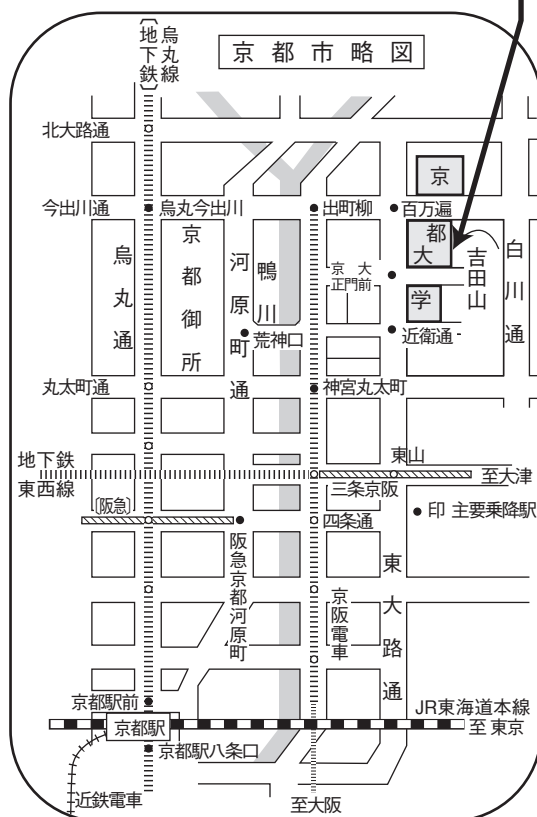
メールアドレス: jyoho-kyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

TEL (075) 753-4894, 5500

(時間 平日：午前9時～午後5時〈正午～午後1時を除く〉)

2025年11月

情報学研究科事務室



主要鉄道駅	乗 車 バ ス 停	市バス系統	市 バ ス 経 路 等	下車バス停
京都駅 (JR・近鉄)	京都駅前(D2のりば)	206号系統	祇園・北大路バスターミナル行き	京大正門前・百万遍
	京都駅前(A2のりば)	7号系統	四条河原町・銀閣寺行き	百万遍・京大農学部前
阪急京都線 京都河原町駅	四条河原町 (Eのりば)	201号系統	祇園・百万遍行き	京大正門前・百万遍
		31号系統	高野・国際会館駅・岩倉行き	京大正門前・百万遍
	四条河原町 (Gのりば)	3号系統	北白川仕伏町行き	百万遍
		7号系統	銀閣寺行き	百万遍・京大農学部前
地下鉄烏丸線 今出川駅	烏丸今出川	201号系統	百万遍・祇園行き	百万遍・京大正門前
		203号系統	銀閣寺道・錦林車庫行き	百万遍・京大農学部前
地下鉄東西線 東山駅	東山三条	206号系統	高野・北大路バスターミナル行き	京大正門前・百万遍
		201号系統	百万遍・千本今出川行き	京大正門前・百万遍
		31号系統	高野・国際会館駅・岩倉行き	京大正門前・百万遍
京阪鴨東線 出町柳駅	当駅下車東へ徒歩約20分			